

## 平成30年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成31年3月29日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	南川 茂樹
研究課題	間伐材を使用した造形物のサイズ変更によって生まれた新たなプロダクト展開の研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	南川 茂樹	デザイン学部・准教授	造形デザイン	デザイン・制作全般	
	分担者					
研究実績の概要	<p>過去に私自身が提案した造形物のサイズに着目し、サイズダウン、サイズアップすることによって、見え方はもとより機能を変化させ、新たな価値を創造することを目的とした昨年度の研究を経て、その提案をより深化させ、多く需要のある機能を有したより生産性を考慮した、新しいプロダクトの提案を研究した。</p> <p>間伐材を用いなるべく歩留まりの良い方法で造形物を制作するためには、板材の交互積層構造になる。過去にその交互積層構造を利用し数種類の家具を制作した。その家具をサイズダウンし、デスクまわりのプロダクトに展開することを思い立ち、1/5のサイズでさまざまな試作を制作した。しかしその試作の機能を探った結果、それほどの新規性が生まれなかった。そこで構造自身を見直し、螺旋状に積層する構造を思いつき、その構造で試作を重ねた。その結果、各部材は接合しているにも拘らず、螺旋構造故に伸縮または湾曲することがわかった。この機能をより生かせるプロダクトを探るなか、これをさらにサイズアップしてペットハウスに応用することに結論づけた。</p> <p>近年、ペット飼育率は横ばい傾向にあるが、少子高齢化に伴い高齢者のペット飼育率が微増している。そのためペットの家族化が進み、小型ペットの住宅内飼育が増えている。そのターゲットに向けて、新しいペットハウスの提案をする。まだ試作段階ではあるが、さまざまな住宅事情に即したペットの新しい住処となるうる提案に繋げる。</p>					

※ 次ページに続く

展覧会発表

第5回 立体・彫刻 OKAYAMA (FINAL)展

2019年3月12日～17日

岡山県展示山文化プラザ

研究実績  
の概要

